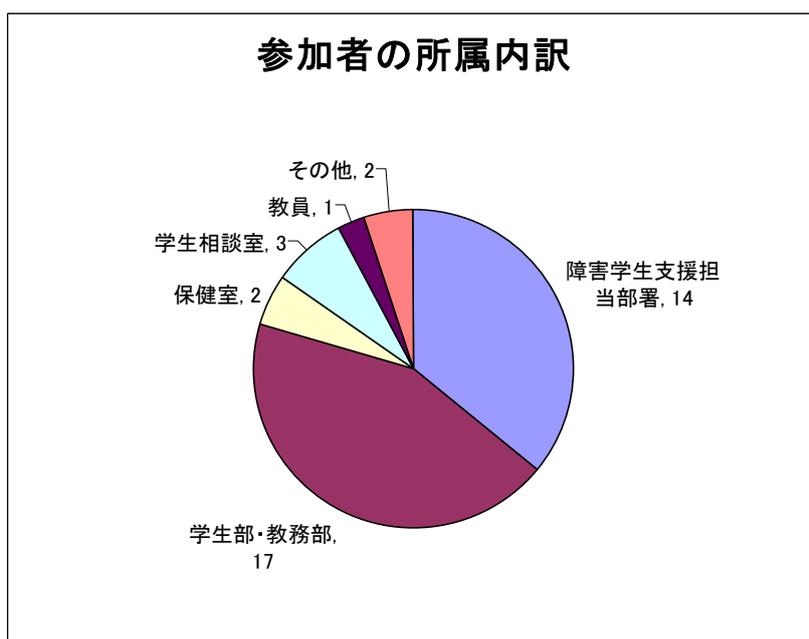


## 第8回 関西障害学生支援担当者懇談会 アンケートまとめ

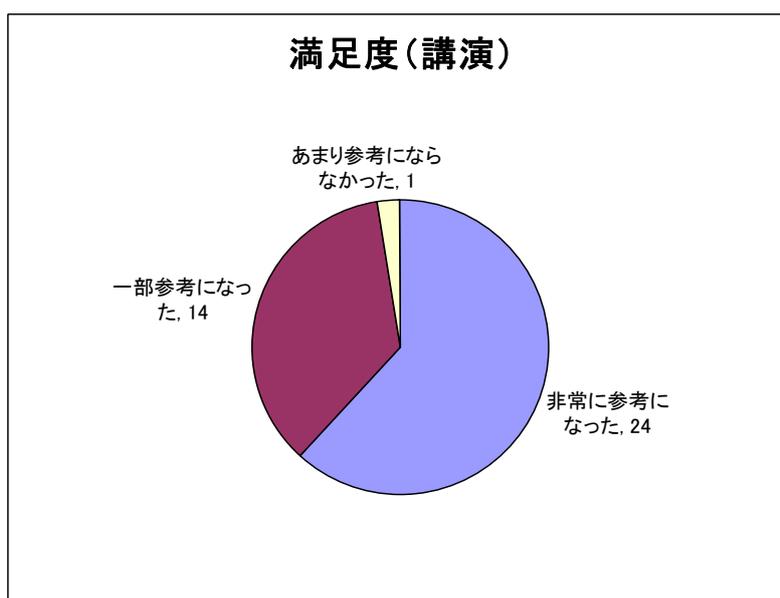
参加総数：66名

回答者数：39名（世話人11名を除く）

### 1. 参加者の所属内訳



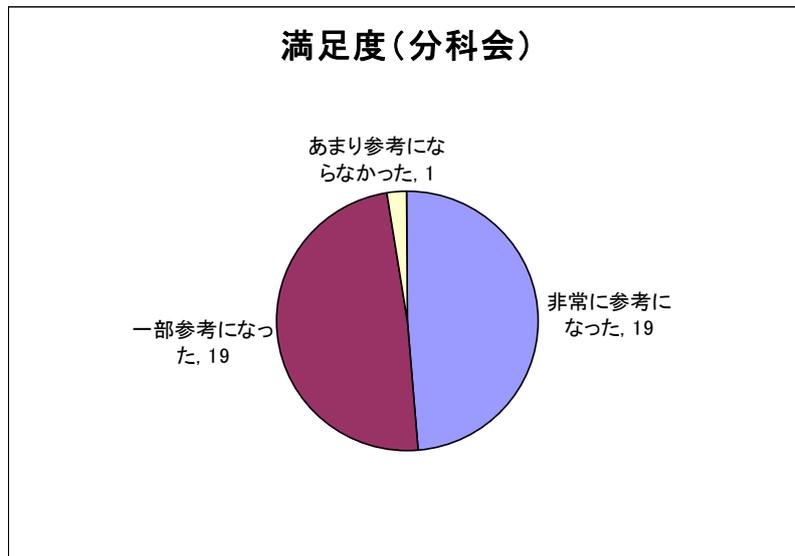
### 2. 講演の満足度



## 【講演で取りあげて欲しいテーマ】

- ・ 発達障害について理解を深める（広める）方法について
- ・ 発達障がいと疑いのある学生の事例
- ・ 大学内の連携を行うときに、個人間ではなく、部局ごとの場合でどのようにされているか（例えば、会議をセッティングするとき、誰がどう動くのか）など
- ・ 入学から就職するまでうまくいったケース（発達障がいの学生等）
- ・ 発達障害と身体障碍の（担当窓口）支援体制について
- ・ 障害のある人の就職支援
- ・ 就労支援について
- ・ 発達障害支援
- ・ コーディネーターの役割等
- ・ 外部と連携を取ったケース
- ・ 支援学生と利用学生の主体性をどう引き出していくか、お話が聞けると嬉しいです。
- ・ 発達障害の就労について
- ・ 増大する障害支援学生に対するソーシャルインクルージョンと支援の考え方について検討してほしい。（養護、指導ではなく、“支援”（対等な関係）で支援室活動を見直す（場合によっては再構築する）
- ・ 発達障害に対する教学的支援の可能性について
  - 「必修」の卒論（自分の考えなどを含めたレポート）が書けない場合はどうすればよいか。
  - プレゼンテーション、講義での配慮
  - 実習科目をどうするか
  - 教育実習を希望する場合の対応
- ・ 障がい学生に関する学内サークル（組織）を設置している事例があれば教えていただきたい。
- ・ 就労支援について
- ・ 合理的配慮（発達障害の）根拠・説明性について
- ・ 学生同士の質保障と障害支援について
- ・ 支援組織を立ち上げた大学様での組織立ち上げプロセスをご教示頂けたらと思います。
- ・ 災害時の支援
- ・ 専門機関をおまねきしての勉強会（発達障害、就職支援、高次脳機能障害など）
- ・ カウンセリングの重要性について。大学におけるカウンセラーの位置づけ、理想の体制について

### 3. 分科会の満足度



#### 【その他・感想】

- ・ 現在はテイク学生の対応しかできていない状況ですので（学生相談室は設置済）今後の支援を拡大していくにあたり、大変参考になる懇談会でした。ありがとうございました。
- ・ 初めて参加し、とても有意義でした。（教員なので授業を休講しては参加できないので、比較的ありがたかったです）
- ・ 分科会ではとても勉強になりました。普段、聞けないような話を聞くことができ充実した時間を過ごすことが出来ました。
- ・ これから支援体制をつくりあげるべきところでしたので、参考になりました。また勉強させていただき、学校で活かしたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 様々な対応を聞かせていただき、こちらの具体的支援が迫られる状況で、創造性が必要になると感じましたし、連携する中で創造的な対応が生まれてくるのかと感じました。全学的な視野で情報を交換することができて、非常に参考になりました。どうもありがとうございました。
- ・ 各大学の状況を聞くことが出来、非常に参考になりました。今後、起こりうるであろう事柄も予測でき、事前に対策を考えていこうと思います。ありがとうございました。
- ・ 勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 各大学のとりくみなどを細かく聞くことができ、大変参考になりました。今回、当支援室が抱える課題に対しての明確な答えが得られなかったが、ヒントになるようなお話がいっぱいあり意義深い分科会でした。
- ・ 各大学の支援体制について学ぶことが出来、有意義な時間でした。困りごとを抱えて

いる学生に学校側がどのように支援を組み立て、学生に関わっていったのか、その支援をどのように評価したらよいのか、今後、各大学で検討していく機会があったらよいと思います。

- ・ 今年度から出席させていただいておりますが、夏の懇談会に比較して分科会の議論が進んだように感じています。
- ・ 学校側でどのような学生に支援をされているのかよくわかりました。
- ・ 本学はまだ学生支援についての事例が少なく、他大学の支援について話を聞く機会をいただけることは大変ありがたく思っている。経験のある大学の事例を聞かせてもらい、今後に生かせる世にしたいと考えている。
- ・ お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・ いつ参加しても刺激が得られ有意義です。今後も参加させてください。
- ・ 障害学生支援担当者同士で共通の問題（課題）について話合うことで、自分自身も一人で解決できないことは相談しようと思えました。地道ではありますが、一步一步支援を進めていきたいと思っています。
- ・ 支援体制が整っている大学と整っていない大学の差が大きいのので、現状を発表し合うよりも、課題をあらかじめいくつか決めておき、その点を中心に話し合った方が、効率が良いかと思っています。
- ・ 学内で支援希望がない場合の学外における活動について、いわゆるボランティア活動（ボランティアセンター）を上手く活用できないか考えています。
- ・ 他大学の情報を頂けてありがたかったです。分科会では、テーマが大きすぎて、深めた議論には持っていきませんでした。状況に近い大学同士の分科会も一度やってみたいですね。
- ・ 講演の際、手元を照らす照度の確保がほしかった。
- ・ 分科会の時間が足りない！テーマを一つ、二つにしぼって、それについて徹底的に意見交換をした方が実りが多かったかもしれない。

以上